

モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



クラウドナイン・クライマーズ・ネット (東京)

伊藤 忠男



1948年東京生まれ。国際 NGO「るしな」IT 顧問として2006年から2年間カンボジアに在住。2008年に NGO「アンコール・クライマーズ・ネット」を設立し、カンボジア人によるクライミングの実現に活動中



リードするスムロン、ピレイするキムスロイ。2人はカンボジアン・クライマーのパイオニアであり、ACN(アンコールクライマーズネット)のカンボジア側リーダーだ。とはいえクライミングで生計を立てる道のりは遠い。スムロンは中学校の体育・英語教師、キムスロイは TAXI ドライバーが本業だ。労山のノリ?



10月洪水のさなか、カンボジアで初めてと言われる労働者の抗議行動があった。5スターホテルの従業員が労働条件の改善を求めてストライキ。女性リーダーのタフなシュビレヒコールには多くの一般市民も興味を持った。しかし、3日目に機動隊によって武力排除された

邂逅

東北大震災から半年近く経ったある日、懐かしいペンからメール

が来た。東京・立川にいるみたいだ。天の計らいかも。じつは彼と話したいと思っていたんだ。僕は少し前に東京に戻っていた。カンボジアで立ち上げた NGO の決算処理のために。僕らはすぐに彼の泊まっているホテルで3年半ぶりに再会した。僕が書いた「カンボジア・クライミング・ルートガイド

ドブック」のサンプルを彼に渡す。これの 2nd・エディションを君と共著にしたいんだ。そういうと、彼は満面の笑みで Great と言った。ペンのおごりで朝ご飯を食べながら僕は本題に入った。僕らが CCF(カンボジアクライミング連盟)を作ったコンペを Shadya(戦略)じゃなく当面の Tactics(戦術)にしていくってという話は前にメールで書いたよね。A1B1. かしウォール(クライミング用人工壁)は様々な都合でシエムリア

プに建った、プノンペンじゃなく。Yeah。今後の展開を考えるとプノンペンにも拠点が要るんだ、君に頼めないか。ベン(Benjamin Tipton)は2006年に初めて会ったとき、まだ26才だった。農村開発の有能な NGO アクティブリストであり、クメール語を自在に操るアメリカの山岳ガイドだ。彼は、2008年に母国に戻り、大学院へ行き直した。その後、結婚してスコミツ

目指せ、 アンコールクライマー誕生!!

シユに近いバンクーバーの大学院へ移動、現在は東アジアの政治をテーマとする研究員としてアメリカ国会にいる。返事の代わりに、カンボジアには10月に行けるだろうと彼は言った。なんだか政治家みたいだな。恐ろしい洪水の続く雨季真っ只

中の9月、カスケーズの「悲しき雨音」を口ずさみながら僕はシエムリアプに戻った。すぐにベンからメールが届いた。カンボジア行きは伸びた。君はチェンマイ、クレージーホースバットレスの開拓者ジョッシュ・モリスと会うべきだ、と書いてあった。将来のカンボジアのクライミングに大きな意味を持つ人材だと。僕はスムロン、キムスロイ(写真)とチェンマイへ出掛けた。モリスはあいにく留守だった。彼の奥さんと話し、彼がカンボジアのクライミングに大変興味を抱いていると訊いた。でもそのことが僕らにとってどういう意味があるのだろうか。

雨季の明ける気配が漂いだした10月中旬のある日、欧米人カップルがウォールへ登りに来て、僕にこう言った。君がこの壁を作ったの? うん、正確には僕の仲間だけだ。なんでまた? うん、ロングストーリー。OK、聞くよ。英語苦手なんですけど。でも聞きたい。登る時間が無くなるよ。もう腕がパンパンさ。さ、もつたいぶつてないで話して。止むなく僕は得意のデタラメな英語で話し始めた。(続く)